

たんぽぽ



病気は本当に辛いけれど、病気になって人の優しさや思いやりに気付くことができたとしたら・・・それは子どもたちにとって大きな成長です。入院は辛かったけど、楽しいことや新しい発見もあった、北里学級はそんな場所でもありたいと願っています。

短冊に込められた子どもたちの願い

北里学級の掲示板には、笹の葉が登場し、通級する子どもたちだけでなく、廊下を通った方は、誰でも短冊に願いを書いて飾るようになっています。「早く退院できますように」「病気が治りますように」という願いに交じって、「家族が仲良く暮らせますように」「おじいちゃんが早く治りますように」といった家族のことを心配する短冊も目立ちます。

入院している子どもたちは、「自分は家族に迷惑をかけている」という思いを心の底に持っているケースが多く、成長に欠かせない自己有用感（自分は、誰かの役に立っているという気持ち）から遠ざかっています。

北里学級では、教科の授業だけでなく、入院中の仲間とのコミュニケーションを通じて、どんな感情も自然に表出できるような場所でありたいと考えています。

幸せって何ですか？

教室でこんなことが話題になったことがあります。「苦しさや辛さを一度も経験したことがない人は幸せなんだろうか」という教師の投げかけを、子どもたちは、しばらく考えていました。どの子も、入退院を繰り返し、本当に辛く苦しい治療に耐えている子どもたちです。

そして「そういう人は、絶対に幸せとはいえないと思う。なぜなら苦しさや辛さ、そして悲しみを乗り越えた喜びを知らないから」「誰かに支えられて生きていることに気付くことができないから」と応えてくれました。

子どもたちの目は、とても真剣でした。



今年度のテーマは、「子どもや家族の精神的支援」

北里学級を設置している双葉小と麻溝台中は、「県病研」(神奈川県病弱虚弱研究会)に所属して様々な研究を行ってきました。5月に第1回理事役員・評議会が神奈川県立南養護学校で行われました。北里学級からは、小中学部の担当教員が参加し、これまでの研究成果と今年度の研究テーマについて話し合いました。今年度の研究テーマは、「子どもと家族の精神的支援」です。北里学級の担任として、どのように子どもや保護者と関わっていくのか考え実践していきたいと思います。研究発表会も7月26日(金)に予定されています。また、その様子もこの学級便りでお知らせしたいと思います。